

「弘法さん」は、弘法大師空海の月命日の21日に、東寺（教王護国寺）で行われる弘法市である。弘法市の起源は明らかではないが、中世に「一服一銭」で茶を商う商人が出るようになり、江戸時代には植木屋などその他の商人も出るようになったことが始まりであるとも言われている。寛政11年（1799）に発行された「都林泉名勝図会」^{みやこりんせんみょうしょうずえ}には、空海の命日に行われる法要、御影供^{みえく}の時の参道の様子が描かれており、植木屋や食べ物^{みえく}の屋台の様子などが見受けられる。

この市が開かれる東寺は、東寺真言宗の総本山である。延暦13年（794）の平安遷都に際して、仏教勢力の排除を意図し、平安京には国家鎮護のため羅城門の東西に、東寺、西寺の二つの官寺のみが造営された。以降、西寺が衰退していったのに対して、東寺は勢力を維持しつづけた。嵯峨天皇により空海^{かし}（弘法大師）に下賜され密教寺院となった東寺は、鎮護国家・王城守護の寺院にとどまらず、密教の隆盛によって貴族の信仰を集めた。空海没後、弘法大師信仰が盛んになり、庶民の信仰によって栄えていく。このため、鎌倉時代以降、大宮七条に稻荷社御旅所があったことなども影響し、次第に東寺門前には、門前町が形成された。



写真2-70 弘法さん

「弘法さん」の当日、の東寺では、御影供^{みえく}が営まれるが、境内や寺の周りには多くの縁起物、日用雑貨品から植木、骨董品まで、広い境内や周辺の通りに所狭しとあらゆる商品の露店が多数軒を並べ、参詣客と活気あるやりとりが繰り広げられる。

なかでも、1月の初弘法^{はつこうぼう}と12月の終い弘^{しま}

法は特に多数の参詣客で賑わい、威勢のよい商人の呼び声が、雑踏の中に響き渡る。

築地堀越しに見える堂舎や五重塔の風景を背景に繰り広げられ、縁日の活気とざわめきの中、買い物客等は時を越えて歴史ある風情を感じさせる。

b 天神さん



図2-42 天神さん

天神さんは、平安時代に学者・政治家として活躍した菅原道真をお祀りする北野天満宮（国宝）において、毎月25日、菅原道真公の月命日に行われる市である。初天神の北野詣では近世の記録にもあり、「弘法さん」と同様、寺社参詣が都市住民の遊山となりつつあった近世には、人々の生活の身近な月市として親しまれていたと考えられる。

「北野の天神さん」と親しまれている北野天満宮は、天暦元年（947）に創建され、中世以降、次第に文教の祖神とも仰がれるようになり、特に学問の神様としての信仰が篤く、受験シーズンには市内だけでなく遠方からも御利益を求める人で賑わう。